次期東北圏広域地方計画策定に関する第３回有識者懇談会　議事要旨

１．日時：令和４年１２月１３日(火)９：３０～１２：００

２．場所：東北地方整備局水災害予報センター（Ｗｅｂ併用）

３．出席委員
石井重成委員、今村文彦委員、姥浦道生委員、小笠原敏記委員、鎌田真理子委員、舘田あゆみ委員、中出文平委員、浜岡秀勝委員、三浦秀一委員、宮原育子委員、若菜千穂委員、渡辺理絵委員

４．挨拶

５．議事
①次期東北圏広域地方計画の骨子策定スケジュールの見直しについて
②骨子素案に関する意見交換
③東北圏として目指すべき方向性や求められる取組等についての意見交換

主な発言内容
議事
事務局より議事について説明を行ったのち、骨子素案体系図や、東北圏として目指すべき方向性や求められる取組等について意見交換が行われた。各委員から出た意見は以下のとおり。

・皆様からの意見が非常によくまとまっているという印象を受けたが、現行計画では一番上に記載されていた震災復興が上から三番目に位置づけられている。震災以降 10 年が経ったが、震災はやはり東北の考え方として切り離せないことであり、最重要ではないかと思う。できれば上に記載のままの方が良いのではないか。
・食料事情やエネルギーの状況が大きく変わってきたので、それに対応することは確かに重要だが、それよりもっと深いところにある部分がこの震災の教訓を生かした地域づくりをして復興するというところだと思う。
・道路ネットワークについては上から二番目の国際連携に記載されており、内容は十分かと思うが、道路ネットワークは完成したら終わりではなく、十分に使ってもらえるように、もっと良い質のものにすることが重要ではないか。
・つながるだけではなく、4 車線になるなど、本当に使いやすい道になってほしい。秋田のエリアでは暫定 2 車線の区間が多いが、整備されてからかなり経過しているため大規模な修繕が必要である。そうしたときに、大規模な修繕となると通行止めするしかないが、1 日で済む話ではなく長期にわたるかもしれない。そうなったときに電車ではやはり貧弱である。4 車線であれば何とか切り抜けられるだろう。全ての交通を止めてしまうと物流にも大きく影響するため、そういった意味でもしっかりネットワークを作っていくというところが重要ではないか。
・また、括弧書きで国際連携とあるが、国際だけでなく地域間の連携など、東北地域の中での連携

も重要かと思う。
・前回の懇談会であった通り、高校生にもわかるようにということだが、その際の見せ方を工夫し、別版として作成する図も見せていただきたい。

・基本方針のエネルギー・食料について、地産地消は時代遅れなのか。東北では地熱発電に着手しており、会津では明治時代から水力発電で関東に電気を供給していたという話を聞いた。近年は水力発電も注目されている。
・以前ドイツに行った際に、多種多様なエネルギーについて福島の皆様と学んできた。一元的なエネルギーではなく、太陽光以外も多様なエネルギーの地産地消が東北の文化にあるということも考えてほしい。
・農業に関して獣被害にも触れていただけると良い。農家の方々が離農している中で、国土の荒れが問題になってきている。
・原発事故で放射能汚染された地区に人が戻り始めている。これもまた世界に発信をするということがキーワードで掲げられているが、チェルノブイリとは全く違っていて、日常を取り戻しつつある。原発のかつて被害を超えて日常を取り戻していることも日本の強みではないか。
・以前安倍政権のときに 1 億総活躍社会というキーワードがあった。福祉の分野で障がい者や出所者の支援をしているが、社会から排除された人がもう一度社会に帰ってくることなど、フィールドの寛容さがあれば可能ではないか。出所者が福島県のいわきをめざしてやってくる。手厚く支援していくことの重要性も感じている。誰もがチャレンジできるという視点で、1 億総活躍社会のキーワードが消えたとしてもそれに類似するワードをいれていただきたい。
・農福連携というキーワードもある。一つのビジネスとしてレストランで障がい者を雇うなど、東北で行われてきているので検討していただけるとありがたい。

・計画の体系・ありようについて、これまでのことを積み上げていき、その延長線上で考えていく視点と、こうありたいと逆算する視点がある。実効性をもたせるには両方必要だろう。
・ムーンショットと呼ばれるような、東北のクリエイティビティを表すような野心的な何か、ビッグチャレンジがいくつかあると良い。
・今の体系図はこれでよいが、より一般的な人、あるいは子供たち、中高生に向けて夢を与えられるような取組を紡いでいけると良い。
・計画の実効性をどこまで考えるか。現在書いてあることはある種の理念であり、これをもとにいろいろな事業開発・政策につなげていくことを担保することをめざすならば、共通する課題解決の原理が極めて重要となる。
・これまでの計画や過去の取組の中で、できたことできなかったことがあり、そこに横たわる本質があるだろう。
・官民共創を本当の意味で進めていくのは難しい。どれだけ国でモデル事業を作ってもなかなか手を挙げる自治体がいない、その自治体も頑張ろうと思っているけれどもなかなか上に通じない、そもそも地域側に民間のパートナーがいないなどの課題がある。本当の意味で官民共創を東北から進めていくか。
・3.11 の経験値も強みとしてもありながらも、６＋１県でみたときに、そこに対しては柔軟に対応するべきだろう。

・「共通する課題解決の原理」を深めていくことがより実効性につながるだろう。
・デジタル業界では NFT や Web3.0 など新しいキーワードがでてきている。ここに含まれなくて良いのか。

・基本方針をもっとコンパクトにしてほしい。例えば「エネルギーと食料の自給力と産業の競争力を高める」など明確に、短くしてほしい。
・基本方針 4 つ目の「女性・若者が自己実現でき地方の先導モデルとなる東北圏の形成」の「女性」を消してほしい。リカレント教育も進められており、女性と若者だけではないという計画にしてほしい。ここの言葉は変えていただきたい。
・主要な施策「多様な主体による中間支援組織や地域運営組織」について、地域運営組織は目的があって支えるものであるので、「多様な主体の協働による地域運営の実現」などとして、地域運営組織は本文でいれていただければ良い。
・「共助によるコミュニティの活性化のための絆の構築」について、共助だけでできることではないと思う。共助に頼るというのも民間への押し付けに見えるので変えていただきたい。
・新しい働き方について言及されていない。東北圏の将来を担う世代である今の若い人の働き方は、本当に様々になってきている。きっとそれで良いのだと思う。官民共創とあるが、官の人も民間的な働き方が求められている時代でもある。新しい働き方を積極的に東北に取り入れるべきである。
・将来像では地域生活圏を入れるのか。地域生活圏というキーワードそのままではなく、その概念を入れてほしい。

・４つの基本方針は東北でなくてもほとんどの地域で言えることである気がする。その中で東北らしさを出していくのはどうするか。
・日本全体の中にどう位置づけていくのかを考えたときに、やはり震災の経験が大きい。基本方針の三つ目に埋もれているのはさびしいと思う。この四つの基本方針がある程度全国共通の部分があるというのは理解できるが、その中で東北らしさを打ち出していくにはやはり震災を最初に持ってくるのが良いのではないか。
・並列ではなく、震災から他の方針がでてくるような、現在の書き方にこだわらず、東北らしい書き方をしてほしい。
・自然環境については、自然を受け継ぐ、守るという視点が中心だと思うが、東北はどううまく使っていくのかも重要であると思う。例えば自然環境、地熱も含めたエネルギーとしての使い方など、必ずしも破壊する形ではなくどう共生していくのか、自然とのうまい付き合い方について、単純にすばらしいものとして受け継ぐのではなく、持続可能な形でつないでいくことを強調できると良い。

・「魅力的な新しい雪国暮らしの実現」に違和感がある。どうしても基本方針や戦略的目標は限られた文字数で表現することになるので、やや抽象的、包括的な文章にならざるを得ないかと思うが、主要な施策の名称を見てもよく分からない。雪国暮らしというのは、積雪期について言っているのか、東北圏の特徴として言っているのかわかりづらい。
・人口減少下においては国土交通省も新たな地域管理構想にかなり軸足を移しているかと思う。農

林水産省も重きをおいている。東北における人口減少がネガティブな側面ばかりであるとは思っていないが、新たなフェーズに入っていることを考えると、農村の在り方も個々の農業者や住民というレベルでの対応は難しくなってきた。やはり地域経営、地域単位で農村や農業を経営していく段階に入っていることを打ち出した方が良いのではないか。

・新しい将来像の「地域生活圏形成の視点を追加」というのが非常に重要である。
・新しい将来像では産業拠点の意味合いだけでなく、生活という側面と融合していくことが重要だろう。
・原発のようなシステムでいうならば、東京や関東圏のための電源開発が東北圏の位置づけとしてあったが、そうではなく、これからは東北の生活、東北の産業のためのエネルギーをまず供給していくことになる。そこに地産地消があり、生活のためのエネルギーとそこでの仕事を生み出すためのエネルギーを循環的につくっていくことが必要ではないか。
・守るための自然というだけではないという点も非常に重要である。再生可能エネルギーで言えば、例えばメガソーラーは山を切りだして作っているということや、風車も宮城県や山形県で様々な問題が住民間で出てきている。
・自然を守りつつ活かしていかなくてはいけない。自然はかつての守るものから、「自然資本」になっている。資本として捉えつつ、共生の観点を一体的に考えていくのが地域生活圏である。環境省では地域循環共生圏という概念を使って説明されている。こうしたキーワードも必要ではないか。
・国土交通省で作られている地域生活圏のポンチ絵は、自然資本というものが含まれていないのではないか。エネルギーにも農林資源産業にも使っていき、それが生活にも寄与すること、産業も生活の一部であるという生活圏を描いていただけると良い。
・生活と産業が別々にあるのではなく、一体的に自然と調和しているようなイメージが東北の中でできると良い。既に再生可能エネルギーが迷惑施設になっている問題事例が多くあるので、具体的な施策の中ではそうした問題の解決にも国土交通省に乗り出していただきたい。

・全体構成が章立てのような（直列的な）書き方になっているが、本来は横軸でつながっているイメージが良いと思う。例えば東北の果たすべき役割として、食料自給に貢献していかなくてはならないが、そこで収益性を高める必要があり、新しいビジネスをどうしたら良いのか、そのためにはデジタル技術が必要であるということなど、つながりが上手に表現できると良い。
・「雪国暮らし」という表現に違和感をもった。後ろに続く施策を見ると、冬に強いというイメージが合っているのではないか。東北全体が雪国であると捉えなくても良いのではないか。北欧では自然や雪を上手にデザインして、大自然のかっこいいイメージを持っているので、そのような全体として目指すイメージがあると良い。
・ムーンショット的なわくわくする感じがほしい。この章立てを見てもどこにもわくわくしなかった。誰にとって魅力的なのかを掘り下げてほしい。今住んでいる人なのか、新しく来ようとしている人なのか、企業なのか、自治体なのかなど、掘り下げていくと良いと思う。
・「女性・若者・高齢者」と表現されることがあるが、やはり違和感がある。誰かが足りないと感じており、働き盛りの男性も一緒に地域に関わるべきである。テレワークやスマート農業などによって、「誰にとっても」過酷でない環境や働きやすい社会にしていくべきである。

・東北圏の将来像について、できるだけ易しい言葉で分かりやすく表現をした方が良い。高校生などがとらえやすい表現が必要である。
・基本方針は単純化するとありきたりな言葉になってしまう。東北圏らしさを取り入れようとしていると思うが、もう少し考えないといけない。
・戦略的目標、20 の施策に明るい未来があるような、希望があるようなキーワードがはいってくると非常に良いのではないか。
・「デジタルとリアル」の部分が弱いのではないか。各県の強みと弱みがあって、それを補いあいながら東北圏を豊かにしていく施策が見えるとよい。

・キーワードがいくつかあるが非常にわかりづらい。基本方針が将来像に対応するよう整理すればわかりやすいだろう。
・基本方針と戦略的目標の関係がわかりづらい。羅列に示している感じがする。例えば、人がいて、コミュニティがあって、暮らしがあって、産業があり、自然があり、国際地域関係があるというような、軸や繋がりがないとばらばらな印象を持つ。
・主要な施策に関して、それぞれの戦略的目標に紐づくと思うので、別資料で空間関連図を示してはどうか。20 施策がバラバラでなく関連性があるのでそれを表示できるのではないかと思う。
・共通する課題解決の「原理」という言葉がひっかかる。ヒントなのか、方向性なのか。
・官民共創とあるが、学による技術開発があってもいいのではないか。通常は産官学というキーワードを使っているので、共創の広がりを持たせていただきたい。
・東北のこれからの 10 年で、何がキーワードになるのか。答えはないが、課題先進地域ではあると思う。いろいろな地域資源があるところが東北の特徴ではないか。そこが新しい将来像で見えると良い。

・体系図について整理はされているが、まだやりようがあるだろう。
・雪国や自然に対する意見があるが、全国計画を受けた広域地方計画として、東北としての特徴をどう示すか。ある程度書かれているとは思うが、もう少しきっちりやる必要があるだろう。
・資料５－２の地域生活圏のポンチ絵について、東北としてどうするのか、作り直す必要があるだろう。
・体系図の国際連携について、「日本海・太平洋 2 面活用型国土」の形成は、まさに東北でしか書けない部分と言っても過言ではない。
・圏域全体の交流連携を支える高速交通網の形成といった時に、三陸道、東北道、日沿道の南北を貫く 3 本の高速交通に対して、従来から言われているあばら骨をどうするか。これが結局日本海太平洋の２面活用に直結すると思う。これが東北圏としての広域計画に書き込める部分だと思う。

（座長）
・自然は、資産にもなるという意見があった。まさに東北は自然豊かな場所であるが、その分豊かなエネルギー産出地でもある。それが観光地でもあるという視点は非常に重要だと思う。6 つの戦略的目標の中でも 3 番目に触れられているところではあるが、そのあたりはもう少し加えてほしい。

・復興、減災、防災については、もう少し重要視してほしいと思っている。他の委員からも同様の意見があったということで、共通認識になったと感じた。
・人材共助については、女性という表現に関する意見はその通りだと思った。地域に住んでいる人が活躍できるような、仕事が上から降ってくるのではなく自らが築き上げていくような、それができやすくなる環境を作っていくというところがこれから重要であることを再認識した。

・今後の方向性として、産業のイノベーションが重要だと思う。今の課題に対して、従来ではない考え方やアイディアで解決していく。従来の歴史・文化の中で、東北から提案できるイノベーションを検討していただきたい。
・福島イノベーションコースト構想のイベント（2022 年 12 月）で、新しい産業では防災を取り上げていた。様々な工夫がされているが、事業化、ビジネス化には難しいところがあるようだ。

・やはり新しい局面を打ち出すのであれば、チャレンジを受け入れる東北圏というような視点が打ち出せると良いのではないか。
・現行計画にはない視点として、オルタナティブの、もう一つの東北圏の姿、もう一つの生き方、もう一つの働き方が求められているのではないか。
・イノベーションや新たな人材、新たな働き方など、チャレンジを受け入れられるインクルーシブな東北圏の姿を示していくようなメッセージ性をここから発信できたらいいのではないかと思う。

・カーボンニュートラル、産業のイノベーション、第 1 次産業の三項目の位置づけについて教えていただきたい。

（事務局）
・この 3 つの項目はまだ全国計画において議論ができていなかったということで、改めて整理をさせていただいたところである。

・デジタル技術を多少大げさにでも強調して強化するということが重要だと思う。クリエイティブな地域やイノベーションを起こすにしても必要なことであると思う。
・東北は西の地域に比べると明らかにデジタル化が遅れている。経済性の問題なのか、新しいものになかなか触れたがらないところが邪魔しているのかわからないが、そこを打破してとにかく新しいところに取り組んでいくことが重要だと思う。横軸で書き方を進めるというよりは、むしろいろいろなところに書いていただきたい。

・DX 化は避けられないため、何がどう変わっていくのかをもう少しイメージしなければいけない。
・特に東北の場合は、都市規模も小さく集落が多い中で、どのように DX に入ってきて、小さい場所でも新しい仕事ができるというような、スモールスケールながら何かいろいろな可能性があるというようなことが打ち出せると良い。
・例えばエネルギーと言っても、大型の再生可能エネルギーが入ってくるのではなく、小規模で分散型のものが入ってくることで、生活の自給自足ができる。ただ楽しみでやるということではなく、経済にもつながっていくことや、DX 化も含めて経済環境と情報と社会などが小さなスケール

の中でもしっかりまとまってくるというようなことが打ち出せると良い。

・三つの項目について、先ほど意見のあったビッグチャレンジというように、東北圏でチャレンジしていくという姿勢を見せられたら良いと思う。

・戦略的目標や基本方針が縦割りになっている部分の関係が見えるようになると良い。
・一次産業については、特に農地をどうするのかという議論があり、耕作放棄地をどううまく集約していくのか、担い手不足の話にもつながるが、そうした農地空間をどうしていくのかも議論する必要がある。

（座長）
・これから将来像を東北で描くときに、DXやカーボンニュートラル、GX、産業のイノベーション、農業や第一次産業についてどう考えるかというのは特に重要な部分であり、東北で議論をしっかりしていく必要がある。
・ただし、話題がぶつ切れになっているので、それをどうつなげて東北圏の将来像を変えていくかをしっかりと入れていかなくてはいけない。
・現行計画と一緒になってしまうので、そこから一歩脱却して、縦割りではなくそれぞれが連関をもってつながりながら一つの世界をどうやって作っていくかというところへ持ち込まないと、東北の計画になっていかないだろう。

・カーボンニュートラル・GXの推進について、資料には洋上風力発電という新しい再生可能エネルギーをうまく電気にしようというところを示されているが、その使い道を検討するべきではないか。電気として使うのはもちろんだが、近年頻繁に言われているのは余剰電力をどう使うかということである。現在は電力不足という状況でもあり、例えば秋田では水素に変えていて工場に活用するなど、検討を進めることで産業が変わるかもしれない。
・場合によっては今後、これから建設される洋上風力を考えていくと、企業を誘致して、地域の中で全てのエネルギーを使える、東京にはいかずに地元の産業で全て使うというところまで視野に入れてできないかと検討を始めている。資料の内容に間違いはないが、もう一つその先をいったところも含めて書いていただきたい。
・また、雪国でいかに自動運転を進めるかというのは非常に難しい課題ではあるが、実験フィールドとして東北地方の道路をうまく使って、最終的にはそれを実現できるような姿も示していただきたい。

・東北オルタナティブという言葉はわくわく感がある。その文脈の中で新しい働き方やその生計の立て方、キャリアの見方という視点は極めて東北においても大事である。
・学ぶ場所、働く場所と暮らす場所が遊離し始めている。どこの大学行くか、どこで働くかによって、自分がどこで暮らすかを決めてきたこれまでの世界観から、それぞれが独立した事象によって選択する未来が割とすぐ近くまで来ている感じがある。
・人間はどうやって暮らす場所を決めるかという問題に対峙している。大学があるから、そこにいい会社があるからなどではなく、地域の魅力や歴史、自然、つながり、コミュニティなど、東北

がつむいできたものが強みになり得るのではないか。
・東北が持つ歴史や文化やつながりなどの要因が働き方や暮らし方の変化の潮流に接続していくということがどこかでオルタナティブとして明示されていると良い。
・デジタルとリアルの融合の考え方について本質的に大事だが難しい。どうしても自治体は自治体単位で物事を考えてしまう。隣の町のことは行政区域が違うと異なっているとしてしまう。
・これを突破していく視点として一つは合併を促していくという話だと思う。しかしこれは政治的でありここで取り扱うべき論点ではないとした場合、やはり民間サイドで行政区域をまたいで活躍できる、議論ができるという中間支援団体やまちづくり会社をいかに育んでいくのかということが本質だと思う。
・地方創生交付金の枠を中間支援団体に広げてもいいのではないか。これは革新的な視点だと思う。
・まちづくりはこれまで自治体を全ての単位として考えていたが、資料の 5 ページで目指しているような世界観を実施していくとした場合に、対象範囲を中間支援団体などに広げて役割を提供していく、交付金の制度や事業の組み方についても手を挙げられるような仕組みを作っていくことによって、自然と広域的な取り組みが増えていくという視点は実務サイドにおいて大事だと思う。

・東北の場合は地形、地理的な要因として首都圏に近接していること、太平洋・日本海の２面をもっていることは他の圏域とはだいぶ違う形である。立地性はあるがなかなか活かしきれてこなかった。それを鑑みて今回の計画にした方が良いのではないか。
・カーボンニュートラルや GX は割と新しい話題だが、産業のイノベーションや一次産業の持続的発展は現行計画でも言われている。
・DX の推進、人口減少、高齢化など社会経済情勢の変化はあるものの、基本的な枠組みはそれほど変わらない。その中でどう新しくしていくのかというところを鮮明に打ち出していく必要がある。
・オルタナティブと言われているが、今までのトレンドではない形で何を変えていく必要があるのか。しかしだからといってドラスティックに変えることはできない。何を土台に、どこの部分をどう変えていくのかというところが、10 年しかないので、絵に描いた餅になってしまうのではないかと懸念している。

・第一次産業の持続的な発展を取り上げていただくのは良いことだと思うが、持続的な発展というより、自立的な、自給力を高めていこうという取組になるのではないか。
・第一次産業だけでやると結局利益は地域外に出てしまう。
・第一次産業という言葉も「山里海産業」にするなど、生産もするが利益が循環するような、農林水産業で稼いで食べていける、そのやりがいも感じられるという東北になってほしいので、そうした方向の表記にしてほしい。
・持続的な発展だとただ維持すれば良いと見えてしまうので、一次産業をこえたイノベーションで稼げる魅力的な仕事にしていくという書きぶりにしてほしい。

・資料 5 について 3 ページの地域生活圏の形成に資する具体的な取り組みのイメージ例について好事例の地域などをお示しいただきたい。実際に成果を上げている事例が求められている。
・9 ページでのイメージ図では社会的企業などの文字も入れ込み、起業意識に刺激を与えることも必要かと思う。

・産業のイノベーションについて、大型の最先端の話が書かれている。いろいろな投資がされているのでこれはこれで良いと思うが、やはり東北は少子高齢化が進んでいる。いろいろな問題があるので、それとリンクしたような産業イノベーションも重要であると思う。それこそ東北圏のめざすべきところではないか。東北圏の課題をどう解決していくかという視点で産業のイノベーションを検討していただきたい。

（座長）

・本日は皆様から様々なご意見をいただいた。
・骨子案の体系図は、やはりこれからの 10 年という部分で、古い部分をしっかりと打ち消し、新しいものに変えていく視点が必要である。例えば、女性や若者、産業のあり方、雪国の表現についてももう少し言葉を検討してほしい。
・また、何よりもそれぞれ打ち出してくる基本方針、戦略的目標、施策もそうだが、東北の計画全体のつながりが、現状では読めないというご意見もあった。
・大変難しい作業ではあるが、構成員の皆様が考えていらっしゃることが共通していて、自然から産業、環境、そういったものが全てがつながりをもって東北を形づくっているというところをもう少し表現できるようになると良い。
・震災に関しては、順番が上であれば重要、下が重要ではないというような位置づけではないと思うが、やはり「震災から生み出されてきた新しい東北」という文脈であっても良いのではないか。防災の先進圏域であることをもう少し強調していただくと良い。
・基本方針と目標と出てきたが、主要な施策を見るとやはり現行の計画で課題となってきたものがそのまま残っているものも多い。
・新しい東北を作っていくということが今回の計画の中で打ち出していけると良い。東北も社会がすごく変わってきていることを前提に作っていく必要がある。
・しっかりとしたメッセージ性であったり、東北でこうやって暮らしていくということで、今までの総合計画でも、国土全体に対して、東北がどういった貢献ができるか、食料基地や資源の供給地であるという位置づけでの役割を担ってきたと思うが、これからは東北という圏域の中で、東北の資源で東北の人たちが東北を豊かにしていくということであろう。
・クローズではないかと思われるかもしれないが、東北はこれまでいろいろな人たちのために貢献してきていた。自分たちのことはさておき、自分たちが不便でも別のところで便利で感謝されれば良いという地域性もあった。そういう意味では、東北の人が東北のことを考えて、東北で囲まれている自然や環境を、自分たちの豊かさのために活用して、そこから産業を生み出していくという、東北の人が豊かになるための計画に落としていくべきである。
・計画の中でやはり見せ方の工夫、つながり、関係性をどうやってこの計画の中で展開していくか、事務局で引き続き議論いただきたい。

（座長）

・今日いただいたご意見を上手に反映していただけるようにお願いしたい。骨子案の体系図のデザインが変わってくることを期待しながら、大変な作業かもしれないがよろしくお願いしたい。

以上